

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第1区分

【発行日】令和4年9月28日(2022.9.28)

【公開番号】特開2022-70972(P2022-70972A)

【公開日】令和4年5月13日(2022.5.13)

【年通号数】公開公報(特許)2022-084

【出願番号】特願2022-21784(P2022-21784)

【国際特許分類】

F 2 1 S 2/00(2016.01)

F 2 1 V 3/08(2018.01)

F 2 1 V 23/00(2015.01)

H 0 1 L 33/50(2010.01)

F 2 1 Y 115/10(2016.01)

F 2 1 Y 113/13(2016.01)

F 2 1 Y 103/10(2016.01)

【F I】

F 2 1 S 2/00 2 3 0

F 2 1 V 3/08

F 2 1 V 23/00 1 4 0

H 0 1 L 33/50

F 2 1 Y 115:10

F 2 1 Y 113:13

F 2 1 Y 103:10

【手続補正書】

【提出日】令和4年9月16日(2022.9.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

内部に実装された、ピーク波長が370nm以上420nm以下の波長範囲の励起光を発する第1発光素子と、前記第1発光素子を覆った、少なくとも赤色蛍光体、緑色蛍光体および青色蛍光体のいずれか1種類を含む第1蛍光体とを有するとともに、可視光域の光を発光する第1発光装置と、

内部に実装され、ピーク波長が370nm以上420nm以下の波長範囲の励起光を発し、前記第1発光素子と同じ発光スペクトルを有し、前記第1発光素子と同電位で発光する第2発光素子と、前記第2発光素子を覆った、少なくとも赤色蛍光体、緑色蛍光体および青色蛍光体のいずれか1種類を含む第2蛍光体とを有するとともに、可視光域の光を発光する、前記第1発光装置とは離れて独立して位置した第2発光装置と、を備えたことを特徴とする照明装置。

【請求項2】

前記第1発光素子および前記第2発光素子は、350nm以上460nm以下の波長範囲にピーク波長を有していることを特徴とする請求項1に記載の照明装置。

【請求項3】

前記第1発光装置から発光される可視光域と、前記第2発光装置から発光される可視光域とは異なることを特徴とする請求項1または請求項2に記載の照明装置。

10

20

30

40

50

【請求項 4】

内部に実装され、前記第 1 発光素子および前記第 2 発光素子と同電位で発光する第 3 発光素子と、前記第 3 発光素子を覆った第 3 蛍光体とを有するとともに、可視光域の光を発光する第 3 発光装置をさらに備えていることを特徴とする請求項 1～3 のいずれか 1 つに記載の照明装置。

【請求項 5】

前記第 1 蛍光体は、少なくとも赤色蛍光体を含み、
前記第 2 蛍光体は、少なくとも緑色蛍光体を含み、
前記第 3 蛍光体は、少なくとも青色蛍光体を含むことを特徴とする請求項 4 に記載の照明装置。

10

【請求項 6】

前記第 3 発光素子は、350nm 以上 460nm 以下の波長範囲にピーク波長を有していることを特徴とする請求項 4 または請求項 5 に記載の照明装置。

【請求項 7】

前記第 3 発光装置から発光される可視光域は、前記第 1 発光装置から発光される可視光域および前記第 2 発光装置から発光される可視光域と異なることを特徴とする請求項 4～6 のいずれか 1 つに記載の照明装置。

【請求項 8】

前記第 1 発光素子、前記第 2 発光素子および前記第 3 発光素子の発光スペクトルがすべて同じであることを特徴とする請求項 4～7 のいずれか 1 つに記載の照明装置。

20

【請求項 9】

請求項 1～8 のいずれか 1 つに記載の照明装置と、
前記照明装置と電氣的に接続された制御回路とを備えたことを特徴とする照明モジュール。

30

40

50